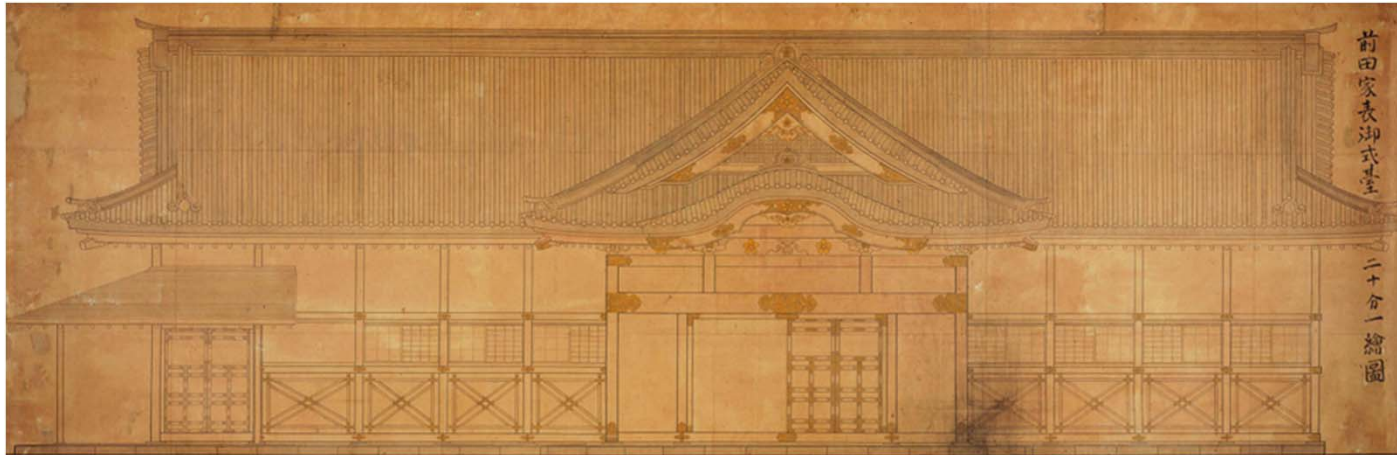


「金沢城二の丸御殿の復元整備に向けた基本方針」の概要

1. 復元の意義

金沢城の中核といえる二の丸御殿を史実に沿って復元することは、金沢城の城郭全体としての機能や役割の理解を深めるとともに、金沢城公園の価値や魅力、ひいては本県の誇る質の高い文化の魅力を大きく高めるものである。

また、伝統的な建造技術や工芸技術により、御殿の建築や内外装を再現することは、本県の匠の技や、全国に誇る伝統工芸の技を発揮し、次代に継承するうえでも大きな役割を果たすことが期待される。



「金沢城二の丸御式台絵図」（金沢市立玉川図書館蔵） 江戸後期の御殿の玄関・式台の外観立面図



中村神社拝殿（御殿の能舞台や書院天井を移築）



尾山神社東神門（御殿の唐門を移築）

これまでの調査研究により、豊富な絵図や文献資料、移築された建築物など、御殿の復元に有用な多くの情報が確認されている。

2. 復元の目的

- ・二の丸御殿の復元により、県民共有の財産である金沢城の価値や魅力を格段に高め、本県の新たなシンボルとして、県民をはじめとする多くの方々に、より親しんでいただくとともに、魅力を国内外に発信する。
- ・調査研究に基づく質の高い取り組みを通じ、金沢城への理解をより深めていただき、史跡の確実な保存・継承に資する。
- ・藩政期から息づく伝統的建造技術や伝統工芸の研鑽・継承の場としての活用を図る。

3. 復元整備の方針

①史実性の高い復元整備

- ・史料や埋蔵文化財調査の結果等に基づき、外観だけでなく内部も含め、史実性の高い復元整備を目指す。時代設定はこれまでと同様に、現存する石川門等と整合する江戸後期とする。

②伝統工法、伝統工芸の活用

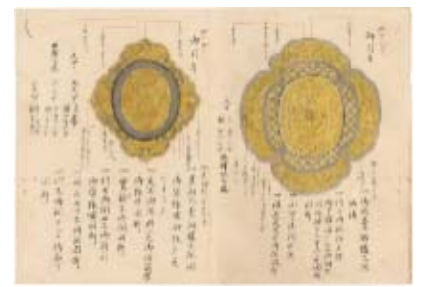
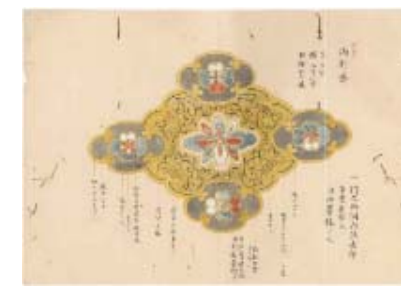
- ・木造の伝統工法による復元整備を基本とする。なお、利活用のため必要な範囲内で構造補強、防災設備、バリアフリー等の現代工法を用いる。
- ・内外装の仕上げや装飾には伝統工芸を活用し、史料等の情報に基づく質の高い再現を目指す。

③御殿ならではの特徴の再現

- ・御殿建築の特徴といえる飾金具や唐紙等について、史料により、使用された場所や寸法・意匠・技法等が明らかになっており、史実を尊重した復元整備を目指す。
- ・御殿の豪華絢爛さを特徴づける障壁画、天井画、欄間等については、再現範囲を検討のうえ、史料から明らかになる情報を参考に、史実を尊重した制作方法による再現を目指す。



内外装の仕様を記した史料 「二の御丸御殿御造営内装等覚及び見本・絵形」 金沢市立玉川図書館蔵



④技術の研鑽、継承の場としての活用

- ・御殿の復元整備を伝統的建造技術や伝統工芸技術の研鑽・継承の場と捉え、技能者が技を磨き、次代に継承できる場として活用を図る。

⑤県民参加による復元整備

- ・復元整備作業の公開など情報発信の取り組みや県民参加による取り組みを積極的に実施する。

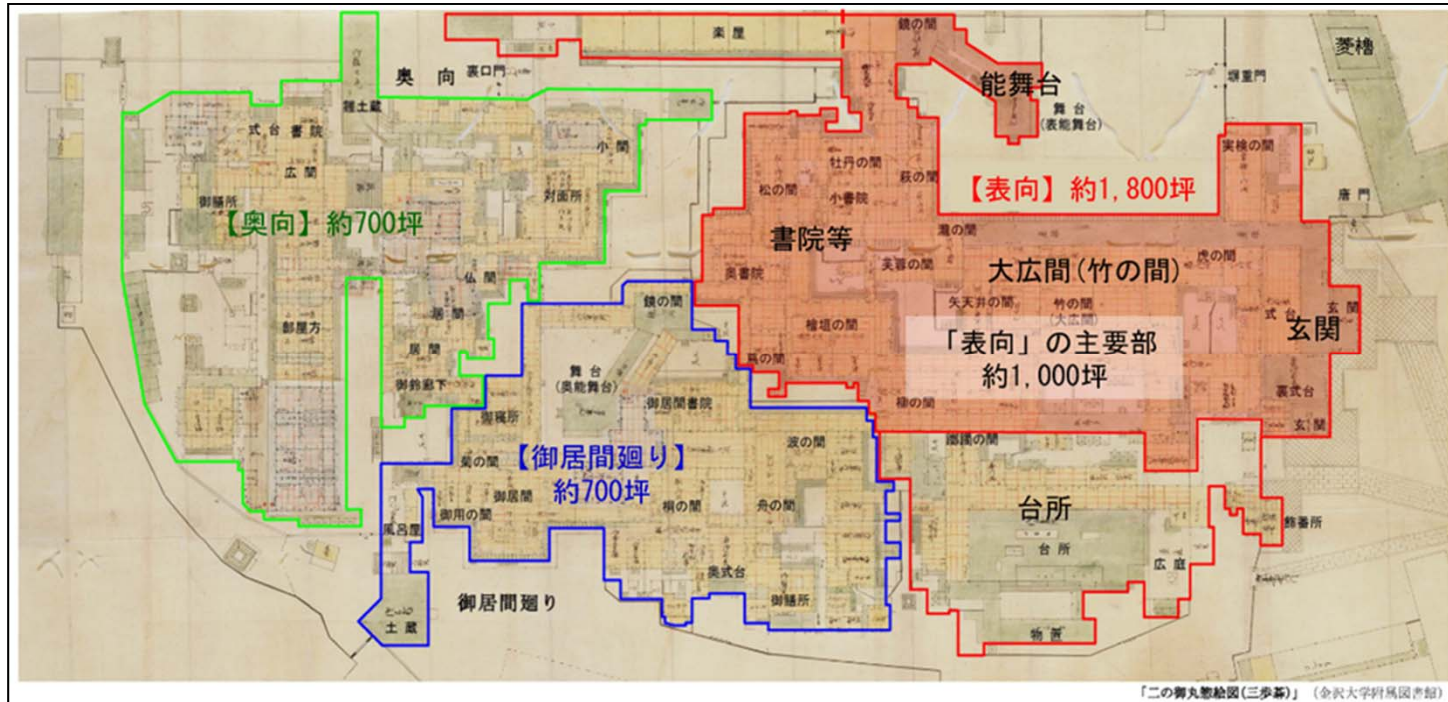


工事見学台、工事見学会の事例（鼠多門）

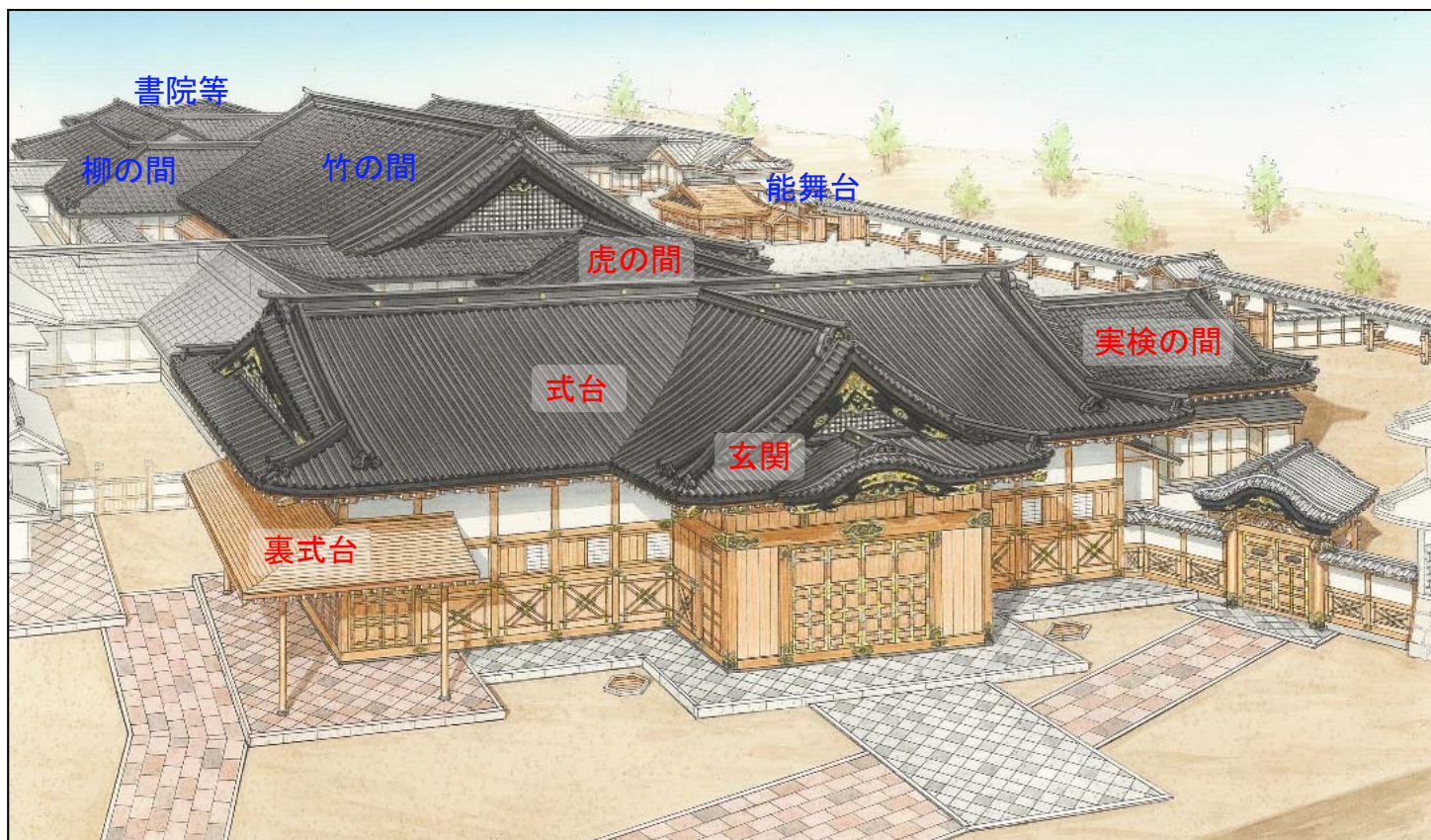
4. 調査・整備の進め方

①復元整備の対象とする範囲

- ・建造物の復元整備は、「表向」の全体約1,800坪のうち主要部約1,000坪を先行し、「表向」の台所、「御居間廻り」、「奥向」については史実の調査研究を継続する。



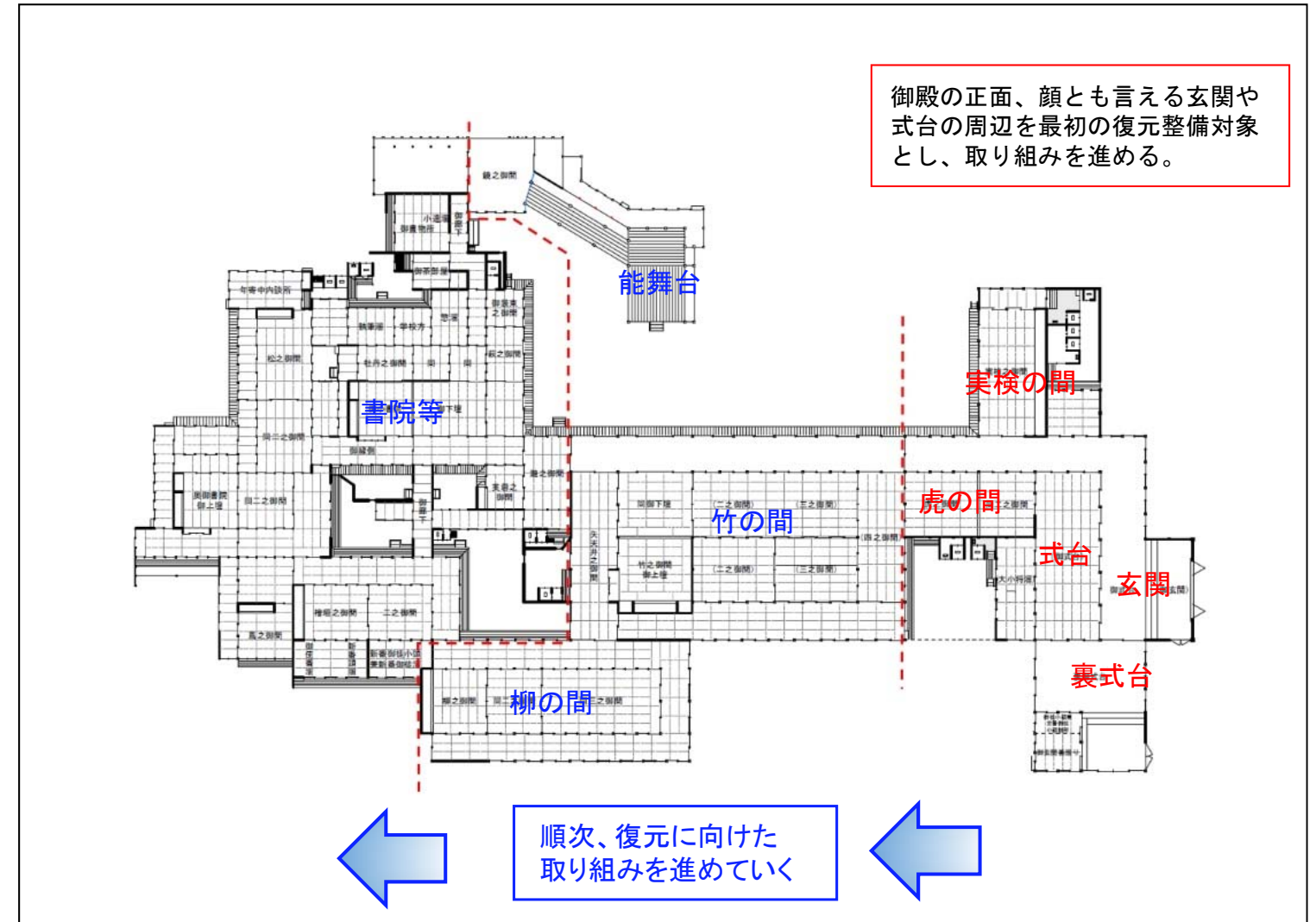
「表向」の主要部の範囲



「表向」主要部の復元イメージ

②段階的な整備の区分(案)

- ・今後の調査状況等を踏まえ、全体で3～5期程度に区分し、段階的に整備を進める。



段階的整備のイメージ(案)

5. 利活用の方針、情報発信

- ・建物内部を公開し見学していただく他、金沢城の歴史を学ぶ講座・体験など様々な活動の場として活用する。
- ・復元整備の工事現場や製作の様子を公開する機会を設けるなど、情報発信に努める。